**天理大学アメリカス学会『アメリカス研究』投稿用テンプレート**

――電子ジャーナル用投稿規定ならびに執筆要項について――

本誌編集委員会（天理大学）

**はじめに**

　本ドキュメントは天理大学アメリカス学会『アメリカス研究』投稿規定ならびに執筆要項を明らかにするとともに、投稿用テンプレートとして活用いただく目的で作成されたものです。各項目を熟読いただき、**本テンプレートの書式フォーマットにしたがって**原稿の作成を進めていただきたく存じます。

　すでにご周知のように本誌は第23号（2018年度）より電子ジャーナル化されておりますが、以来、出版工程のほとんどが編集委員の手作業によりおこなわれております。したがいまして、投稿の際には執筆要項を遵守していただき、省力化にご協力いただけましたら幸いです。

**１．投稿規定**

　本誌は天理大学アメリカス学会の定期刊行物（2018年以降は電子ジャーナル）であり、投稿資格を有するのは原則として天理大学アメリカス学会会員とします。

　本誌は査読誌となっており、投稿原稿については天理大学アメリカス学会役員により構成される編集委員会の査読を経たうえでの掲載となります。

　投稿原稿の分量は、図版・図表をのぞき原則として以下の字数とします。なお、欧文原稿に関しても同程度の分量とお考えください

研究論文 20,000字程度（本テンプレートで約17ページ）

研究ノート 12,000字程度（本テンプレートで約10ページ）

翻訳 12,000～16,000字程度（本テンプレートで約10～14ページ）

資料紹介 12,000字程度（本テンプレートで約10ページ）

書評論文 12,000～16,000字程度（本テンプレートで約10～13ページ）

書評 4,000～8,000字程度（本テンプレートで約4～7ページ）

（なお、字数を大幅に越える投稿原稿につきましては事前に編集担当者までご相談ください）

　入稿は本テンプレートの書式ならびに本ドキュメントに記載の執筆要項に準じて作成された電子ファイルによる完全原稿とします。投稿期日、送付方法、送付先等については別項に定めます。

　電子ジャーナルとしての性質上、抜き刷りについては配布・頒布することはいたしません。学会ウェブサイト上のフォルダより必要に応じてプリントアウトしていただくことになる点、ご承知おきください。

**２．執筆要項**

**（１）使用ソフトウェアならびにページ設定**

　本誌への投稿に際してはMicrosoft Wordもしくはその互換ソフトウェアを使用し、本テンプレートと同様の書式にて文書を作成してください。なお、ページ設定の詳細については以下に示すとおりですが、このドキュメント自体がそのページ設定にしたがったテンプレートとして作成されていますので、このファイルをダウンロードしていただき、上書きするかたちで執筆していただいても結構です。

　　○判型　A4タテ・横書き

　　○余白　上：35㎜　下：30㎜

　　　　　　左：30㎜　右：30㎜

　　　　　　とじしろ：0mm

　　○ヘッダ／フッタ　不要

　　○ページ番号　不要

　　○字数　42字　文字送り10.1pt

　　○行数　41行　行送り16pt

　　○フォント　和文：ＭＳ 明朝

　　　　　　　　欧文：Times New Roman

　　○ポイント　論題：14pt 太字 中央揃え

　　　　　　　　副題：14pt [全]ダッシュ2文字にて囲み 中央揃え

　　　　　　　　著者：11pt 右揃え 所属先は括弧書きにて表示

　　　　　　　　章題：12pt 太字 中央揃え 章番号は全角ローマ数字＋全角ピリオド

　　　　　　　　節題：10.5pt 太字 左揃え 節番号は括弧書き全角ローマ数字

　　　　　　　　本文：10.5pt 左揃え

　　　　　　　　＊行間については本テンプレートを参照してください

**（２）引用と注釈**

注は以下に示す（Ａ）参照リスト方式か、（Ｂ）参考文献目録方式のいずれかとします。

（Ａ）参照リスト方式

　巻末に引用文献（参考文献）リストの一覧を掲載し、本文、注釈においては著者姓、刊行年、該当ページ番号のみを括弧書きにて示します。注釈は引用文献の表示には使用せず、本文の補完的説明にのみ用います。Wordの脚注機能をご使用の場合も注釈はすべて後注としてください。注釈は本文中に半括弧付の通し番号（上付）を付し、本文末に通し番号順に記載します。

《例》

------------［本文］------------

...ポルテスはトランスナショナリズムを「国境を越えて規則的かつ長期間にわたって維持される社会的接触を要件とする諸活動」（Portes 1999: 220）と定義づけた１)。...いっぽうで、オジェはサイバースペースに代表されるコミュニケーションの空間を人類学的な分析対象とすることを提唱している（Augé 2002: 244-245）。

------------［文末］------------

【注】［＊各項の1行目は字下げにします］

1) さらにポルテスは、トランスナショナルな移民活動を生成する条件として、地理的距離と時間の短縮を可能にした航空機に代表される移動手段の飛躍的な発達、国際電話・ファックス・電子メール・衛星放送などのコミュニケーション技術の革新、越境的移住を支援する社会的ネットワークの確立をあげ、同時代的な視点を提示している点は注目に値する。

2) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○...

3) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○...

――――――1行空け――――――

【参考文献】［＊具体的な書式は「（３）文献リスト」を参照してください］

Augé, Marc. 1994. *Pour une anthropologie des mondes contemporains*, Paris： Editions Aubier.

Portes, Alejandro. 1999. “The Study of Transnationalism: Pitfalls and Promise of an Emergent Research Field,” *Ethnic and Racial Studies*.22 (2)*.* 217-237.

《注意》

＊同一文献からの引用の場合、ibid、op.cit、同書、前掲書といった表記は使用せず、上記の書式を繰り返します。

＊ページ番号は[235-38]などのように省略せず[235-238]のように完全表記します。

＊例にあるように、文末の場合は句点の前に挿入します。

（Ｂ）参考文献目録方式

　出典を明らかにするための引用文献の紹介と本文の補完的説明の両方を、本文の該当箇所の右肩に数字を付すことによって後注（脚注は用いないでください）で表します。なお、Wordの脚注機能をご使用の場合でも脚注とはせず後注としてください。

《例》

------------［本文］------------

　...ポルテスはトランスナショナリズムを「国境を越えて規則的かつ長期間にわたって維持される社会的接触を要件とする諸活動」1）と定義づけた2)。...いっぽうで、オジェはサイバースペースに代表されるコミュニケーションの空間を人類学的な分析対象とすることを提唱している3）。

------------［文末］------------

【注】［＊各項の1行目は字下げにします］

1) Alejandro Portes, “The Study of Transnationalism: Pitfalls and Promise of an Emergent Research Field,” *Ethnic and Racial Studies*,22 (2), 1999, 220.

2) さらにポルテスは、トランスナショナルな移民活動を生成する条件として、地理的距離と時間の短縮を可能にした航空機に代表される移動手段の飛躍的な発達、国際電話・ファックス・電子メール・衛星放送などのコミュニケーション技術の革新、越境的移住を支援する社会的ネットワークの確立をあげ、同時代的な視点を提示している点は注目に値する。

3) Marc Augé, *Pour une anthropologie des mondes contemporains*, Paris： Editions Aubier, 1994, 244-245.

――――――1行空け――――――

【参考文献】［＊具体的な書式は「（３）文献リスト」を参照してください］

Augé, Marc. 1994. *Pour une anthropologie des mondes contemporains*, Paris： Editions Aubier.

Portes, Alejandro. 1999. “The Study of Transnationalism: Pitfalls and Promise of an Emergent Research Field,” *Ethnic and Racial Studies*.22 (2)*.* 217-237.

**（３）文献リスト**

参考文献は本文、注の後に【参考文献】【参考ウェブサイト】に分け、著者姓あるいはサイト名のアルファベット順に以下の書式で記載します。

《例》

------------［本文］------------

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

------------［文末］------------

【注】［＊各項の1行目は字下げにします］

1) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○...

2) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

3) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○...

――――――1行空け――――――

【参考文献】［＊各項の2行目以降を字下げ（ぶら下げインデント）にします］

Appadurai, Arjun. 1996. *Modernity at Large: Cultural Dimensions of Globalization*. Minneapolis, MN: University of Minnesota Press.

⇒洋単著の例（書名はイタリック体指定）

Glick-Schiller, Nina, and Linda Basch. 1995. “From Immigrant to Transmigrant: Theorizing Transnational Migration.” *Anthropological Quarterly* 68 (1). 48-71.

⇒洋雑誌論文の例（論文名は “...”、雑誌名はイタリック体指定）

Kearney, Michael. 1995. “The Effects of Transnational Culture, Economy, and Migration on Mixtec Identity in Oaxacalifornia,” In *The Bubbling Cauldron: Race, Ethnicity, and the Urban Crisis*, edited by Michael Peter Smith and Joe R. Feagin, 226-43. Minneapolis, MN: University of Minnesota Press.

⇒洋編著所収論文の例（論文名は “...”、書名はイタリック体指定）

村田勝幸 (2007)『〈アメリカ人〉の境界とラティーノ・エスニシティ ――「非合法移民問題」の社会文化史――』東京大学出版会

⇒和単著の例（書名は『...』）

中野達司 (1998)「ブラセロ・プログラム：米国におけるメキシコ人労働力のあり方」, 『国際関係紀要』7-2, pp.119-135, 亜細亜大学国際関係学会.

⇒和雑誌論文の例（論文名は「...」、雑誌名は『...』）

桜井三枝子 (1995)「マヤ世界の祝祭儀礼 ――「語る聖像」儀礼を中心として――」, 『メソアメリカ世界』小林致広編, pp.125-182, 世界思想社.

⇒和編著所収論文の例（論文名は「...」、書名は『...』）

山本匡史 (2003a)「『死者の日』の創られかた―米国におけるメキシコの伝統行事の移植をめぐって―」, 『アメリカス学の現在』天理大学アメリカス学会編, pp.139-152, 行路社.

---- (2003b)「カリフォルニアにおけるオアハカ先住民の動向とその文化戦略」, 『京都ラテンアメリカ研究所紀要』3, pp.145-154. 京都外国語大学.

---- (2005)「祭り（フィエスタ）とアイデンティティ ―メキシコ系住民による３つの祝祭をめぐって―」, 『アメリカのヒスパニック＝ラティーノ社会を知るための55章』,大泉光一、牛島万編著, pp.293-299, 明石書店.

⇒同一著者による複数文献の例

――――1行空け――――

【参考ウェブサイト】

Centro de La Communidad Mexicana (CECOMEX). http://cecomex.com/　(2008年7月31日アクセス）

e-Migrantes. http://www.e-migrantes.gob.mx/wb2/eMex/eMex\_eMigrantes（2008年7月1日アクセス）

H. Ayuntamiento de Chilpancingo de los Bravo. http://www.chilpancingo.gob.mx/（2008年7月31日アクセス）

Mexicans & Americans Thinking Together Foundation (MATT). http://www.matt.org/（2008年7月31日アクセス）

Tlapa Digital. http://www.tlapadigital.com/（2008年6月15日アクセス）

**３．入稿要領**

2021年度11月末発行の第26号については、投稿締切日を2021年9月末日必着とします。なお、すでにご投稿の計画を進めておられる場合は、つぎの項目について明記のうえ、事前に下記の投稿用メールアカウントまでご一報いただけましたら幸いです（あくまでも編集や査読手配等の円滑化をはかるための措置ですので、任意といたします）：

○投稿者氏名・所属

○論題（仮題でもけっこうです）

○原稿種別（論文、研究ノート、書評等...）

原稿本体の送付方法は、電子メールに原稿ファイル（docx形式）を添付のうえ、下記のメールアカウントまでお送りください。

天理大学アメリカス学会『アメリカス研究』編集担当　山本匡史気付

<tlaloc@sta.tenri-u.ac.jp>

　なお、メールの標題（subject）には「アメリカス研究26号投稿原稿」と明記のうえ、本文中に著者姓名のアルファベット表記、ならびに邦文原稿の場合は欧文論題（原則として英語、スペイン語、ポルトガル語のいずれか）、欧文原稿の場合は邦文論題を記入してください。

　受領した原稿は本誌編集委員会にて査読のうえ採否を決定します。査読結果によっては掲載条件として、原稿内容や体裁の修正を求めることがありますのであらかじめご了承ください。

執筆・投稿等でご不明な点は上記のメールアカウントにておうかがいします。

それでは会員諸氏の積極的なご投稿、お待ちしております。